

第 7 1 1 回

I B C 番組審議会 議事録

－ 議 題 －

I B C テレビ

「セカトビ ～世界に飛び出せ！岩手のアスリート～」

2 0 2 6 年 6 月 1 6 日 (火)

(株) I B C 岩 手 放 送

第711回IBC番組審議会

1. 開催日時 2026年6月16日（火）午前11時

2. 開催場所 IBC岩手放送 Dホール

3. 委員の出席 委員総数 9名
出席委員 9名
出席委員の氏名（リポート含む）
委員長 田代 高章
副委員長 熊谷 志衣子
委員 高橋 司
繁田 奈菜子
柴田 千春
龍澤 尚孝
菊地 文彦
後藤 高宏
郷右近 勤（リポート）

会社側出席者

眞下 卓也	代表取締役社長
八木 宏樹	常務取締役編成局長
兼平 宗彦	取締役メディアセンター長
清水 康志	報道制作部ディレクター
大志田 融	メディアセンター次長

事務局

藤原 崇史	番組審議会事務局長
平澤 泰志	番組審議会事務局員

4. 議 題

IBCテレビ

「セカトビ〜世界に飛び出せ！岩手のアスリート〜」

6月6日（土）午前7時～午前7時半 放送

5. 議事の概要

<委員の主な発言>

- 小中高生を中心とした次世代アスリートからプロスポーツまで、幅広く熱心に頑張る岩手のアスリートを紹介しており、テンポも良く、幅広い視聴者が楽しめる大変意義のある番組だった。
- 高校総体バドミントンで優勝した花北青雲高校の特集では、キャプテンを中心に白熱した試合の様子やそこに至る過程が丁寧に描かれており、熱い思いや練習の姿に見入ってしまう素晴らしい内容だった。
- 一方で、スポーツには勝敗がつきものであるため、敗退した相手校に対する配慮やリスペクト、敗北を越えて次を目指す姿勢なども伝えられると、より多面的にスポーツの価値を示せたのではないかと指摘があった。
- 番組冒頭の話題となったプロゴルファー米澤蓮選手のニュースについて、映像がなく音声による実況のみであったため、状況が伝わりづらかった。写真やテロップによる情報の補足や、ゴルフに疎い視聴者に向けた分かりやすい説明などの配慮が必要だったとの意見が複数あった。
- プロバスケットボールチームの話題を取り上げたコーナーにおいて、BGMやテロップ時の効果音が大きく、出演者のトークが聞き取りづらい部分があったため、音量のバランスには注意してほしい。
- 小学生のチャレンジ企画は、子供たちの生き生きとした反応が印象的で心温まるコーナーだが、一つもクリアできずに落ち込んでしまう子供への配慮として、初心者でも最低限クリアできるような難易度設定も検討してほしいとの声があった。
- 今後の要望として、メジャーな競技だけでなくマイナースポーツの紹介や、生涯スポーツ、スポーツを支える指導者などの裏方にも焦点を当てていくことで、より番組の裾野が広がるのではないかと期待が寄せられた。